

## 私と日本学術会議

片山 倫子

日本医歯薬アカデミー創立 30 周年、おめでとうございます。

この記念すべき時期に医歯薬アカデミー会員のお仲間に入れていただき、御一緒にお祝いができることを大変うれしく思っています。私は昨年 9 月末を以て連携会員（第 20 期及び第 22 期）及び会員（第 21 期）としての 9 年間の活動を終えましたが、この間、特に第 21 期後半からはシンポジウムの開催に当たって医歯薬アカデミーから多大の助成金をいただきました。これらにつきましては詳細は学術会議のホームページに表出されておりますが、お陰様で相当充実した活動を展開することが出来ました。この場をお借りいたしまして心から御礼申し上げます。第 23 期からの家政学分科会メンバーに分科会活動を引き継いでいただくことになりましたので、よろしくご支援下さいますようお願いいたします。

「日本学術会議」と私との初めての接点は今から 50 年程前で、当時私はまだ院生でしたが、指導教授から日本学術会議会員候補者名等が既に印刷されているはがきを渡され、必要事項を記入して投函して欲しいと依頼された時に、先生から「日本を代表する学問分野から選ばれたその学問分野を代表するにふさわしい科学者からなる日本学術会議」について説明を受けました（平成 20 年に出された「声明 日本学術会議憲章」によると、『日本学術会議法』に基づいて 1949 年（昭和 24 年）に創設された当初の日本学術会議では、会員の選出は《立候補・公選制度》によっていたとある）。

投票した人がどうなったかは全くわかりませんでした。その後大学での研究教育が相当軌道に乗った頃から徐々に学会のお手伝いをするようになってから、「家政学」の先輩方の念願が「日本学術会議の中に家政学研究連絡委員会を設置すること」にあることを知りました。既に会員になっていた隣接領域の先生方のお力添えによって、第 13 期（1985 年（昭和 60 年）7 月～）から家政学研究連絡委員会が第六部農学に設置され、家政学関連学会から研連の委員を出せるようになり、会員の枠が出来、初代の会員（研連委員長）には林雅子氏（第 13～15 期）が、また順次島田淳子氏（第 16～17 期）、丹羽雅子氏（第 18 期）、江澤郁子氏（第 19 期）が会員として推薦されました（前出の憲章によると 1984 年の『日本学術会議法』の一部改正は会員の選出制度を学協会による《推薦制度》に改めて、日本学術会議と学協会との連携関係を組織的に強化したとある）。この間、私は家政学会から推薦され蚕糸学研連委員（委員長は山下興亜氏、研連委員は現行の連携会員に近いもの）および家政学研連委員（委員長は、丹羽雅子氏と江澤郁子氏）として日本学術会議の活動に加わってきました。しかしながら第 20 期の会員選出手続きが本格的な変更を経て構成されたため、組織の性格および会員の意識の両面において第 19 期とは大きく変わり、二部の生命科学分野に設置された分野別委員会の中の健康・生活科学委員会の中の 4 分科会（会員枠は 4 つ設定されていた）の一つとして生活科学分科会の名称で「家政学」分野は残ったものの、他の 3 分科会に 4 枠が行ってしまい、家政学は会員の枠を失ってしまいました（前出の憲章には 2002 年の『日本学術会議法』の一部改正は、第 20 期の会員の選出を有識者会議による選出に過渡的に委ね、それ以降の新会員の選出は現会員による《直接推薦・選出制度》に委ねたとある）。この事は家政学分野に関わる多くの先生方にとっては、とても看過できる状況ではありませんでした。連携会員として学

術会議に関わることになったのですが、内外共になかなか厳しい中で活動した3年間でした。

第21期には、体育の加賀谷先生のお力添えがあつて家政学分野に会員枠が与えられましたが、逆に体育の会員枠が無くなってしまいました。その後また体育にも会員枠が出来たのですが、このような状況を生んだのは新生学術会議の会員選出方法に問題があつたものと考えます。社会から信頼され評価される学術会議のあり方として、会員の最低条件として「日本を代表する学問分野から選ばれたその学問分野を代表するにふさわしい科学者」であることが基本です。その上でどのようにして会員または連携会員の有資格者を選出するかについて再考して欲しいと思います。会員最長9年に更に連携会員として活動を続けられる現在の任期制度は、限られた人が運営権を持つ可能性が出てくるので如何なものかと考えます。個人の評価および会員枠の分野別配分等については特に広い視野をもった運営を期待しています。

第19期までの会員は7部に分かれていたためか、日本医歯薬アカデミーは医学・歯学・薬学以外の分野の会員はアカデミーの会員になれ無いと勝手に思い込んでおりましたところ、春日会員にお勧めいただいて入会することが出来ました。

また、学術会議においてご指導いただきました多くの会員・連携会員の皆様に心から感謝いたします。

最後になりますが、日本医歯薬アカデミーのますますのご発展を祈念いたします。

#### ●プロフィール

片山 倫子

日本学術会議第21期第二部会員

日本学術会議第20・22期連携会員

日本学術会議第23期特任連携会員

日本学術会議第20・21期健康・生活科学委員会生活科学分科会委員長

東京家政大学家政学部教授

東京家政大学名誉教授